Miyako
Kitakamisanchi
Museum of Folklore

宮古市北上山地民俗資料館

資料館だより

2013.3.26 発行 NO.19

岩手県宮古市川井2－187－1 TEL0193－76－2167
http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/

館務実習生の受け入れ 2012.9.25～9.28

博物館などで企画・運営を行う学芸員の資格取得を目指す、岩手大学人文社会科学部の学生20名が当館で館務実習を行いました。実習生は、小国分館の民俗資料移動作業、展示作業、聞き取り調査などの館内実務の実習のほか、民俗資料への理解を深めるため「藁ぞうり作り」の体験も行いました。

館務実習の感想

環境科学専攻　田村真理恵さん　本館に展示してある資料だけでも見ごたえがあったが、分館にも膨大な数の資料があって圧倒された。展示作業では、それだけ多くの資料があった場合に何を・どれくらい・どのように展示するかについて深く考えられた大切な機会になった。聞き取り調査では、直接地域の方から話を聞くことの大切さを身にしみて感じた。ぞうり作りでは自分で作ること、体験することの大切さを学び、体験学習にはどのようなことが必要なのか、どのような環境を整備すれば体験学習が行えるのかなど学ぶことが多かった。

国際文化専攻　枝並美沙紀さん　私は先人達の知恵と「もの」を作り上げる技術に何度も驚かされ、同時にそれらを伝えていく重要さを改めて実感した。小国分館での展示作業は実際に自分達で展示する事ができ、展示する際の工夫などを学び有意義な実習になった。

農学部共生環境専攻　大沼織江さん　私が最も感じたのは、地域の方の協力の重要性、そして地域の方の温かさだ。聞き取り調査では、話者の方々が丁寧に資料を使用した当時のことを説明してくれた。藁ぞうり作りでは、昔のおまじないとお葬式の際の藁ぞうりの使い方について話を聞くことができ、とても興味深かった。とても充実した学ぶ事の多い実習になった。

法学専攻　新康平さん　資料の多さに驚いた。教科書で見ていたような道具類に実際に触れることができ、当時の川井村の暮らしぶりをうかがい知ることができた。本来使われなくなったら処分されていってしまうはずの道具の数々がこれほど多く残っている自体がすごいと思った。そして、その道具を使用していた人から聞き取り調査ができたことはとても貴重な体験だった。また、藁ぞうり作りの体験ができてとても楽しかった。

岩手大学の実習生は、当館の開館準備にあたり資料整理に協力いただいたことをきっかけに受け入れており、今年で18年目です。この他、大学側から実習生の受け入れ依頼があった場合、宮古管内出身の学生を受け入れています。

農具についての聞き取り調査の様子
（協力：中村隆さん）

養蚕についての聞き取り調査の様子
（協力：古舘チヨさん）

信仰関係の聞き取り調査の様子
（協力：高屋喜多男さん）

「藁ぞうり作り」体験学習
（協力：湯澤武さん、湯澤孝さん、菊地務さん、荒田忠一さん）

小国分館の整備について

― 今年度経過報告

当館では、平成17年に閉校した旧小国中学校の校舎と体育館を小国分館として活用しています。旧体育館は当初から民俗資料の収納庫として利用してきました。そして平成21年に新たに分館となった旧校舎については、民俗資料の分類展示と体験学習ができる施設として平成23年度から整備を始め、３カ年の計画で現在も作業を行っています。

民俗資料の活用や展示資料の選定および実際の展示作業は岩手大学人文社会科学部で「博物館学」と「博物館実習」の講座を担当しておられる名久井文明氏にご指導をいただきながら進めています。旧校舎の１階には実習作業室の他に、「食生活」に関係する民俗資料の分類展示室や、川井地域の「郷土芸能」や「年中行事」について写真パネルなどで紹介するコーナーを設けます。また2階には､「繊維」「製糸」「機織り」「衣類」など「衣生活」に関するコーナー､「畜産」「農耕」の資料を紹介するコーナー、「狩猟・川漁」「住生活」「計量」の資料を紹介するコーナーをを設け、旧教室を利用して展示しています。このほかにも、昔の技術に着目して、「運搬方法のいろいろ」「樹皮・わら細工、木材加工」「木を切り出す」「製材」「炭を焼く」といったテーマに沿って資料を紹介するコーナーもあります。それぞれのコーナーには実際に手にとって観察してみたり、使ってみることができる道具も準備する計画です。

展示資料の運び込みはほぼ終了し、現在は民俗資料の展示作業を行っています。あわせて体験学習のメニューも考案しています。平成25年度には、展示作業を継続して行い、あわせて解説プレートも作成し、展示する予定です。

公開については平成26年度以降、定期的に見学会を開催するほか、学校の授業での利用に対応していきたいと考えています。

「樹皮・わら細工、木材加工」コーナーの展示の様子

「木を切り出す」「製材」「炭を焼く」コーナーの展示の様子

「運搬方法のいろいろ」コーナーの展示の様子

「住生活」コーナーの展示の様子

学校授業でご利用ください

当館は山村の昭和30年代頃までの暮らしや仕事の道具を展示しています。その中には、社会科に関係する昔の暮らしや農具の変遷がわかる資料だけでなく、国語の教材に出てくるものもあります。このほかにも「てこの原理」を利用して動かす道具や、枡や秤といった計量に使われた道具などもあり、理科や算数でも活用できるものがあるのではないかと考えています。当館では、「見る」だけの展示ではなく、実際にさわってみる、使ってみるといういわゆる「体験」ができるような整備を進めています。学校の先生たちのご意見をお聞きしながら、授業に役立てていただけるように資料を整えてまいりたいと思います。

見学の様子（川井小学校）

「糸より車」をまわす体験の様子（江繋小学校）

古文書解読講座　11月11日、18日、25日

「古文書解読の基礎知識」、「くずし字などの特徴」、「南部藩の行政システム」、「宮古代官所と村政」などを学ぶ古文書解読講座を開催しました。市史編さん室の假屋主査を講師に、13名が受講しました。テキストに使用した古文書は、当館が所蔵する川井地域の古文書資料等です。講義は藩政時代の制度や用語の解説などをまじえながら行われ、初心者にもわかりやすい内容でした。

受講生からは、「皆さんと集まっての講座が楽しみ」、「難しいけれど、地元の資料なので親しみが持てる」、「川井地域だけでなく、宮古市内の他の地域の古文書も学習する機会がほしい」などの感想が寄せられました。

古文書解読講座の様子

所蔵資料等の虫害管理について

今年度、小国分館収納庫のガスくん蒸を行いました。本館では、館内の虫やカビの状況について把握するための中害管理業務を継続して行っています。

虫害防除については、国や県の文化財保護の方針に沿って、他館の動向を見極めながら、今後もより良い方策を検討してまいります。

今年度の入館者数　（2月28日現在）（人）

一般	学生	児童	団体
312	18	12	176
免除・公用 一般	免除・公用 学生	免除・公用 児童生徒	合計
231	28	50	827

来館者の感想（メッセージノートより）

○展示品がとても美しく、使用写真があるのもとても良いです。（大阪府から見学に来られた方より）

○この資料館の内容の充実に驚きました。貴重な資料の伝承に敬意を表します（東京都から見学に来られた方より）

○幼い頃の生活が思い出され、とても懐かしかったです。雫石とは呼び名が違っても本当に良かったです。今の子供はあまりにも便利でこのような様々な道具を見る事がないでしょう。是非いつの日か孫達を連れてきて、見せ、聞かせたいと思います。（雫石町から見学に来られた方より）

企画展「山村の仕事着・春夏秋冬」

3月20日（水）～5月12日（日）

明治、大正、昭和30年代まで、この地域で畑仕事や山仕事などで着ていた仕事着を紹介する企画展を開催しています。

当時、上半身に着ていたのは［みつか］や［長みつか］で、その下には［もひき］や［もんぺ］をはいていました。［みつか］は腰がかくれるくらいの着丈で［はんどう］とも呼ばれます。夏は［ひとえ］、寒くなってくると裏がついた［あわせ］、そして冬には［綿入れ］を着て、重ね着もしながら温度調節をしていました。

このような仕事着はほとんどが自家製で、「のの（アサの織物）」や木綿などで作られました。アサは畑で栽培し、取り出した繊維から糸を作り、［はったぎはたし］で織り、染料で染めます。織りあげた生地を裁って着るものに縫い上げますが、一枚の仕事着が仕上がるまでには、多くの時間と手間がかかりました。また、ワタが栽培できない当地では、木綿は古手木綿を買うなどして利用していました。生地を大切に使うため、着ているうちに擦り切れたところにつぎ当てをしたり、ほどいて縫い直したりしていました。

企画展では、こうした仕事着の他に、衣類の素材やはき物などもあわせて紹介しています。

企画展開催にあたっての聞き取り調査から

北上山地民俗資料館ホームページ

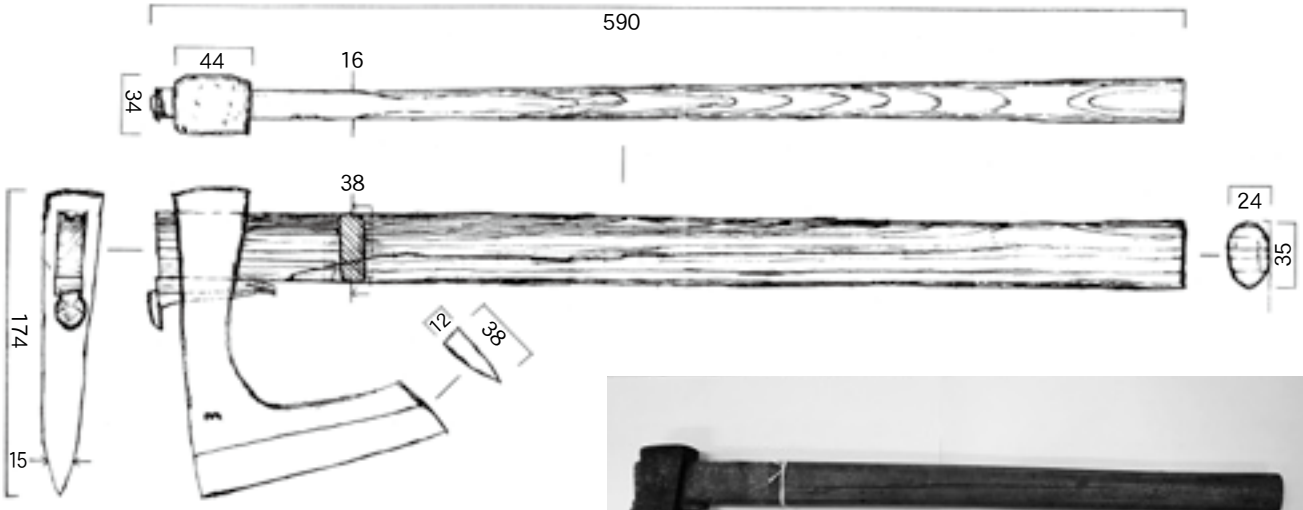
http://kitakamisanchi.city.miyako.iwate.jp/

資料館だよりバックナンバー、これまでの活動、国指定「北上山地川井村の山村生産用具コレクション」などを紹介しています。

◆資料の寄贈（平成24年4月～25年2月）

道又勝貴様（おしらさま、お稲荷様、菊花石）、古舘徳雄様（古文書、とうかなど421点）、古舘たみ様（にわ釜など150点）、立花セイ子様（はんどう、綿入れ）、名久井文明様（むしろはたし、けら、炭すご）

ご協力ありがとうございました。スペースの都合ですぐに展示はできませんが、お名前を明記し、展示資料と同様に適切に保管してまいります。



資料名　大工のまさかり　(№.9901)

寄贈者　太田正吉さん

使用方法
- 大工が柱や梁などの建材を削るとき使う。１間くらいの長さの材も削ることができるが、だいたいは「さっとしたところ」を削るのに使う。
- 片手でも使うことができる。
- 両刃になっているので、刃が材にささって抜けなくなることがない。

備考
- 枕木を取る［刃広まさかり］より小さいので片手でも削ることができる。
- 今でも使っている人がいる。

話者　前関光蔵さん

作図者　福士幸枝

実測図とは・・・

実測図は民俗資料を正確に計測し図面化して記録したもので、民俗資料の素材、構造、製作技術、外形などの情報を伝達することができます。指導をいただいている名久井芳枝先生は実測図には次の３つの役割があると述べておられます。

記録保存資料（未来への情報伝達）
啓蒙資料（一般の人々への情報伝達）
学術資料（研究者への情報伝達）

作図者がじっくりと観察し、丁寧に仕上げられた実測図は、当館の記録として蓄積されるだけではなく、他地域や未来へ向けた情報発信の手段ともなります。作図作業は地道で労力を必要としますが、今後も当館では地域の伝統文化を記録する実測図作製を続けてまいりたいと考えています。

実測図を描いて

初めての実測図を描く機会を頂きました。寸法が測り易いようにと、方眼用紙の上に置かれた資料は「大工のまさかり」。なぜ「大工の」？それよりも私に描けるだろうか？様々思いながら、名久井先生はじめ実測図の先輩方にご指導いただきながら描き始めました。

今まで資料館を見学する側だったので、資料は透明なケースの向こう側に設置されているか、手で触れてはいけないものだと思っていたので、手袋を着けた方が良いのか悩みました。「この資料は素手で触れても良いのでしょうか。」と尋ねてみたところ、「人に使われていたものだから素手で触ったほうが喜ぶよ。」と言われました。驚きでした。とはいえ外形を描き終えるまでは位置を動かす事ができない為、質感を描きこむ段階でようやく持ち上げる事ができました。

「まさかり」の柄には、木目や年代ものの汚れや鋸の跡がついています。その中でどれが木目なのか分かりませんでしたが、名久井先生が「この木材は柾目で、丈夫に切り出した大工の道具だよ。」と言って、木目の見方を教えてくださいました。だから「大工のまさかり」なのかと納得し、資料それぞれに個性があるのだと分かりました。

そんな丈夫な木材にも、道具として使われていた頃には無かっただろうひびが入っています。少しでも良い状態で資料が実測図に描かれて、未来へと受け継がれてほしいと思いました。実測図を体験できて楽しかったです。

福　士　幸　枝